

常照

第781号

本願寺小樽別院

二月の常例布教（ご法話）のご案内

○前期 二月七日（木）～十一日（月）

北海道教区 留萌組 西暁寺

講師 藤 順正 師

○後期 二月十三日（水）～十六日（土）

北海道教区 後志組 照覚寺

講師 佐々木 法 雨 師

○場所 小樽別院内

○時間 午後二時（法要終了後）～午後三時半

浄土真宗のみ教えについて布教使にご法話をして頂きます。

どうぞお誘い合わせいただき、ご聴聞に来院くださいますよう、

お待ちしております。

いのちの責任

シリアの武装勢力に三年以上の間拘束されていたジャーナリストの安田純平さんが無事に解放されました。

ご家族はもちろん、記者仲間や友人はどれほどに心配したことでしょう。

菅官房長官から発表があり、日本政府から身代金が支払われた事実はないとのことでした。

それにしても武装勢力とは一体何なんでしょう。長い歴史を考えれば軽々に片付けられないでしょうが、力づくで自分たちの要求を叶えようとする姿勢は、いかなる理由があっても受け入れられません。一刻も早く、武器を捨てお互いが平和に生きていける道を見出さねばならないでしょう。

とにかく安田さん、無事でよかったですね。

さて、こういった事件が起きると報道などでは「自己責任だ」という言葉が聞かれます。

少しでも早く紛争が終わるようにと願い、現状の悲惨な状況を伝えるため危険な地域に命懸けで入っていく使命感には頭が下がります。が、みんなが止めているにもかかわらず、覚悟して行ったのだから何があっても自分のせい、自己責任だということですよ。

確かに理屈ではそうでしょうが、そうかといって放っておいてもいいのでしょうか。正解があるのか、私にはわかりません。

私たちは子供のころから、自分のこととは自分で、ちゃんと責任をもって行

動を・・・と教えられてきました。

人間として、特に大人は自分の行動に責任を持つのはどこの国でも当然でしょう。でないとな、無責任といわれ誰も信用してくれません。

しかし、ちよつと考えてみてください。私たちは生まれてから死ぬまでの自分の行動すべてに責任を取り切れるのでしょうか。

生まれたときは、何も知らずに生まれてきます。というより、気が付いたら生まれていました。そして、人間に生まれたいと思つたかどうかもわからず、生まれた時代も生んだ親も選べずに生まれました。

死ぬときはどうでしょうか。あまり考えたくはありませんが、きっと自分の思い通りにはいかないでしょうね。

そうすると、自己責任というけれど、生まれて死ぬというこの私のいのち、人生で一番大切ないのちの始まりと終わりに私は何の責任も取れないということになりませんか。

「自分のいのちだから自分で責任を取る。自分で人生を終わらせる」という方もおられるかもしれませんが、そんなもつたいたいことは止めてください。せつかくいたいたいのかなのですから。自分のいのちの意味をしつかりと見定めもせず、勝手に死ぬのはそれこそ無責任というものです。

それに私たちは自分とか自己とか言いますが、私が言っている「自分」とはなんでしょう？ 私たちは自分の思いを自分だと思っっているのではないのでしょうか・・・。

話を元に戻しますと、自己責任というのはあくまで、自分の意志で決定し行動した場合に限定される考え方・言葉ということになります。

つまり、私たちは生まれて死ぬこと・いのちそのものの責任は取り切れません。いのちの責任を持つ方法を持たないのです。

それは、あまりにも不安で、不確かな存在であるといわねばなりません。

そういう私たちに「大丈夫だよ」と責任を取ってくれる声が南無阿彌陀仏のお念仏なのです。

阿彌陀如来さまは私の気付かない私の本性を見抜いて、「大丈夫だよ、私がいるよ、私がお前さんのいのちの責任を取ってやる。だから私の名を称え、生きぬいておくれ」と絶えず、大

悲しんでくださっているのです。

私が願うよりも先に私のことを心配して届いてくださった大悲の願い。

南無阿彌陀仏であります。

自分のことは自分で・・・という思いあがり、お陰様で・・・という感謝に変えられてゆきます。

さびしいとき

金子みすゞ

わたしがさびしいときに、
よその人は知らないの。

わたしがさびしいときに、
お友だちはわらうの。

わたしがさびしいときに、
お母さんはやさしいの。

わたしがさびしいときに、
ほとけさまはさびしいの。